

地域連携・協働に関するアンケート(NPO等非営利活動団体対象)

集計結果

NPO等非営利活動団体の活動状況や運営上の課題、他団体との連携・協働の現状把握調査

- 実施時期 令和5年8月23日(水)～9月30日(土)
- 対象 ① コラボネット登録のNPO、一般社団法人
② 兵庫県内の中間支援組織
③ ひょうごボランティア基金助成事業 R5 年度交付決定団体
計 511 団体
- 実施方法 Google フォームによるオンラインでの実施
- 回答数 81 件 (回答率 16%)

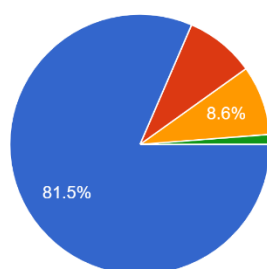
★設問1～4については、団体名、連絡先等非公開情報が含まれるため省略。

★記述回答部分は、原文のまま記載。ただし、個人情報等、特定される部分については一部加工。

団体の概要について

5. 貴団体について該当するものを下記から1つ選んでください。

81 件の回答



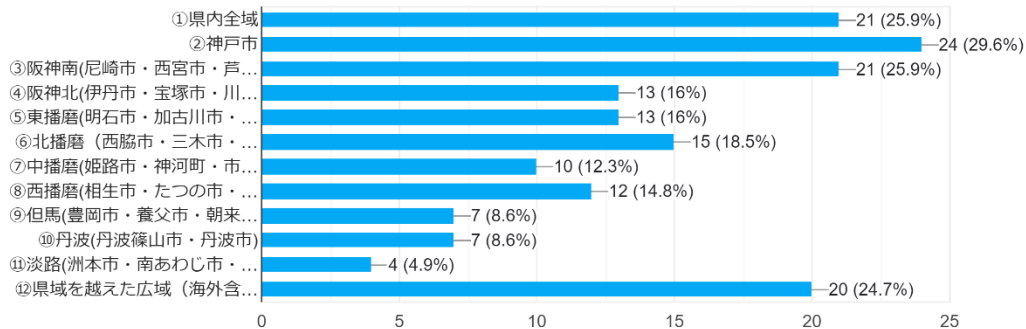
- ① NPO 法人
- ② 認定 NPO 法人
- ③ 上記①、②を除く、公益法人 (一般社団法人など)
- ④ その他 (法人格を有しない団体)

① NPO 法人	81.5%
② 認定 NPO 法人	8.6%
③ 上記①、②を除く、公益法人 (一般社団法人など)	8.6%
④ その他 (法人格を有しない団体)	1.2%

活動について

6. 貴団体の活動地域について下記から当てはまるものすべて選んでください。(複数選択可)

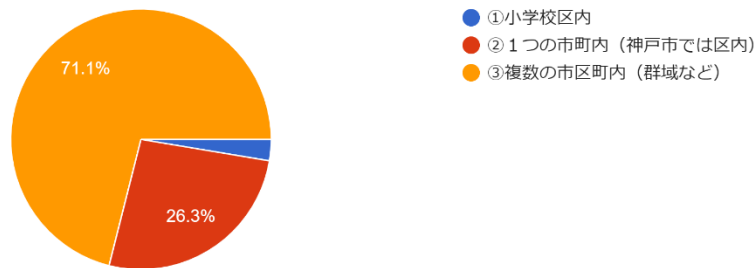
81 件の回答



① 県内全域	25.9%	② 神戸市	29.6%	③ 阪神南	25.9%
④ 阪神北	16.0%	⑤ 東播磨	16.0%	⑥ 北播磨	18.5%
⑦ 中播磨	12.3%	⑧ 西播磨	14.8%	⑨ 但馬	8.6%
⑩ 丹波	8.6%	⑪ 淡路	4.9%		
⑫ 県域を越えた広域(海外含む)	24.7%				

7. 設問6で「①県内全域」「⑫県域を越えた広域(海外含む)」以外を選ばれた方にお聞きします。活動範囲について下記から1つ選んでください。

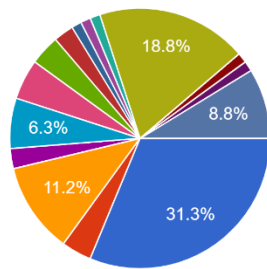
38 件の回答



① 小学校区内	2.6%
② 1つの市町内(神戸市では区内)	26.3%
③ 複数の市区町内(群域など)	71.1%

8. 活動分野のうち最も中心的に行っている活動はどれですか。下記から当てはまるものを1つ選んでください。(特定非営利活動促進法(平成十年法律第七号)第2条別表より)

80件の回答



- ①保健、医療又は福祉の増進
- ②社会教育の推進
- ③まちづくりの推進
- ④観光振興
- ⑤農山漁村又は中山間地域の振興
- ⑥学術、文化、芸術又はスポーツの振興
- ⑦環境の保全
- ⑧災害救援

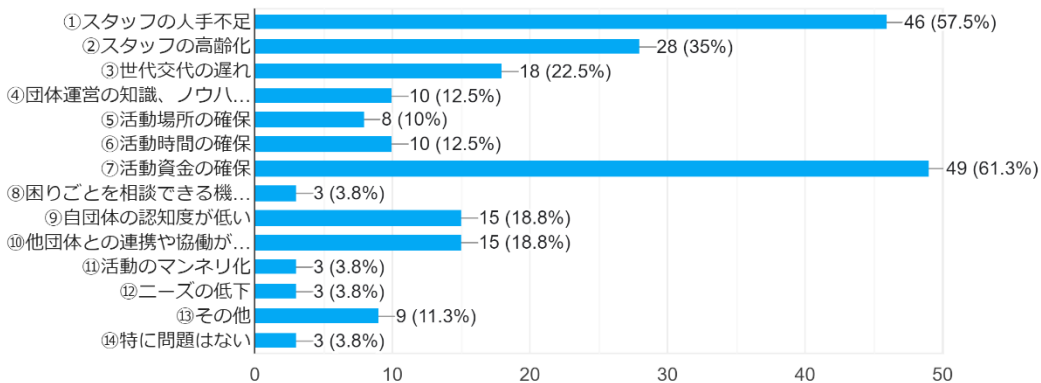
▲ 1/3 ▼

① 保健、医療又は福祉の増進	31.3%	② 社会教育の推進	3.7%
③ まちづくりの推進	11.2%	④ 観光振興	0%
⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興	2.5%	⑥ 学術、文化、芸術又はスポーツの振興	6.3%
⑦ 環境の保全	5.0%	⑧ 災害救援	3.7%
⑨ 地域安全	2.5%	⑩ 人権の擁護又は平和の推進	1.2%
⑪ 国際協力	1.2%	⑫ 男女共同参画社会の形成の促進	1.2%
⑬ 子どもの健全育成	18.8%	⑭ 情報化社会の発展	0%
⑮ 科学技術の振興	0%	⑯ 経済活動の活性化	1.2%
⑰ 職業能力の開発又は雇用機会の拡充支援	1.2%	⑱ 消費者の保護	0%
⑲ 上記の活動を行う団体の運営又は活動への援助	8.8%	⑳ 上記の活動に準ずる活動として自治体の条例で定める活動	0%

運営上の課題について

9. 貴団体を運営する上での課題は何ですか。(複数回答可)

80件の回答

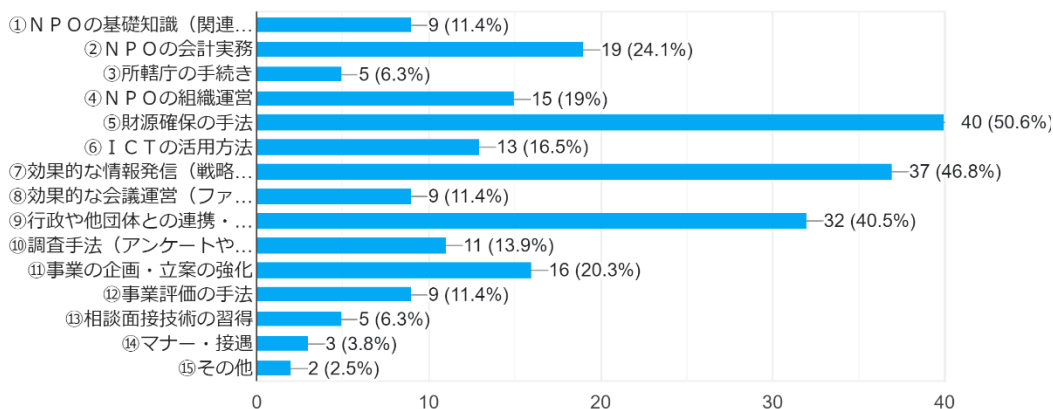


① スタッフの人手不足	57.5%	② スタッフの高齢化	35.0%
③ 世代交代の遅れ	22.5%	④ 団体運営の知識、ノウハウの不足	12.5%
⑤ 活動場所の確保	10.0%	⑥ 活動時間の確保	12.5%
⑦ 活動資金の確保	61.3%	⑧ 困りごとを相談できる機関などがない	3.8%
⑨ 自団体の認知度が低い	18.8%	⑩ 他団体との連携や協働が弱い	18.8%
⑪ 活動のマンネリ化	3.8%	⑫ ニーズの低下	3.8%
⑬ その他	11.3%	⑭ 特に問題はない	3.8%

10. 前項で「⑬その他」を選ばれた方は具体的な課題をご記入ください。

・ 宣伝、広告等の費用捻出。
・ 最低賃金法改正による毎年度の最低賃金増加による人件費や活動資金の捻出。
・ スタッフの人材育成(マネジメント人材の育成)。
・ 障がい者の就労施設を運営しているが、その障がい者が作業でき、しかも収益の上がる仕事と巡り合えていない。
・ 人材育成が難しい。
・ 南海トラフ巨大地震の発生が 2030 年代とも言われる現在にあって「活動分野」の 카테고リーに「地域防災」というものがない。阪神・淡路大震災を経験した兵庫県ならこれを特化するべきではないでしょうか?「兵庫県には津波災害がない」と考えている人が多いのに驚きます。また、震度 6 レベルの横揺れが断続的に数分間続くということもあまり認識されていません。間違いなく阪神・淡路大震災を上回る被害が出ます。しかも西日本一帯で。ボランティアプラザでもこの点を押さえていただきたいと思います。
・ 安定的な資金。
・ より質の高い子育て支援の展開、周知。
・ 事務所維持の固定費の確保、人件費の確保、ホームページリニューアルの資金など。

11. 運営上の課題解決のために、スキルアップのセミナー等があれば、どのような内容を受講したいですか。下記から3つ選んでください。



① NPOの基礎知識 (関連法や税制等)	11.4%	② NPOの会計実務	24.1%
③ 所轄庁の手続き	6.3%	④ NPOの組織運営	19.0%
⑤ 財源確保の手法	50.6%	⑥ ICTの活用方法	16.5%
⑦ 効果的な情報発信 (戦略的な広報等)	46.8%	⑧ 効果的な会議運営 (ファシリテーション力強化等)	11.4%
⑨ 行政や他団体との連携・協働	40.5%	⑩ 調査手法 (アンケートやヒアリングの手法)	13.9%
⑪ 事業の企画・立案の強化	20.3%	⑫ 事業評価の手法	11.4%
⑬ 相談面接技術の習得	6.3%	⑭ マナー・接遇	3.8%
⑮ その他	2.5%		

12. 前項で「⑯その他」を選ばれた方は内容をご記入ください。

・ 自治会や一般向けに、NPO 法人や市民活動の、本当の意味での認識や役割を理解してもらいたい。
・ 貸借対照表、損益計算書などの財務諸表やその他の経営に関する資料の見方。

活動地域等における地域課題について

13. 貴団体の活動地域が抱える課題をお聞かせください。

(貴団体が活動される中でお気づきになられた地域課題など)

・ 各団体間で運営ノウハウ等の共有と連携の不足。
・ 若い世代の人材不足。
・ 不登校の居場所が少ない。
・ ひとり親家庭／困窮家庭の支援団体が少ない。
・ 治安の問題。
・ 活動内容の認知度と当団体への期待度。
・ 人口減少、高齢化、人手不足。
・ 震災以来、行政と市民がともに協力し、協働を模索してきた過去があり、他府県に比べ行政と市民団体の距離が近いのが兵庫県の特徴であったが、震災復興までの協働経験者の高齢化もあり、これまでの経緯を知る人が減り、首長の交代もあり協働から合理化(とはいうものの、予算が減ったので前向きな合理化とは思えない)へと大きな舵が切られ、行政と市民団体の距離感も急速に広がり始めている気がします。特に都心部で。(地方ではいまだに知恵を共有し協働しようとする意識は高いところも多くある気もしますが)
・ 町の過疎化と高齢化。
・ 高齢者の引きこもり、生活活発化。
・ 健康寿命とは？ またそれを延ばそうとする意識が乏しい。
・ 高齢化に伴い認知症に関する情報が少ない。
・ 高齢化による、農地山林の放置と所有者不在による地域活動の障害となる。 空き家の増加による、地域景観、防犯の悪化。
・ 経済的に格差。
・ 樹林の高齢・高木化。
・ 参加者の高齢化。
・ 学校広報に関して、行政からの後援は許可されるが、学校からは広報の協力を断られる(教員の負担軽減が理由)。
・ 活動者が高齢化しており、若者世代は生活のための就労が忙しく次世代への引継ぎが課題。
・ 高齢の方が多い。
・ 行政担当者と携わる中で、意識や知識、本気度などが低いと感じる。 また任意団体と携わる中で、目的意識が浅いことがある。
・ 子育て家庭の孤立。
・ 地域連携をとるにあたって他団体の高齢化に伴う衰退。
・ 地域の子どもたちが文化やアートに触れる機会が少ないのではないかと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のことを自分事と考えられる機会がない。頼る相手がおらず1人で頑張っている人が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的背景、宗教など性をタブー視していて、なかなか踏み込むことが難しい課題である。学校現場では、常に経済難、時間がないなど、課題も多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の企業への就労や一般企業採用困難な状況と就労支援の課題です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 困窮家庭の自立が困難なこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の避難支援が進んでいない現状。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地縁団体の高齢化と担い手不足。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資金調達、人材調達への課題を抱える団体が多い、組織化しない個々の活動が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が少ない、活動団体・地域の後継者不足。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少による財政難、住民の参画意識。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携できるようなNPO法人が見当たらない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時代遅れの固定観念が強く残っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山や農地が多く、交通手段が少ない。高齢化が進み、高齢者の独居や夫婦二人世帯が多い。移動手段は自家用車に頼っているが運転ができない高齢者も多い。タクシーはあるが、一人で通院や買い物に利用すると高額な負担になる。買い物は移動スーパーや生協の配達、社協などの買い物ツアーの利用がある。通院は同居や別居の家族が送迎や付き添い対応するが、対応してくれる家族がない場合は、タクシーに頼り、付き添いがなく困ることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 野良猫の問題解決を考える人が、地域の自治会に相談しにくいみたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな課題解決に取り組む活動団体が存在しているようだが、協議会などのネットワーク組織はあっても、団体同士の協働をコーディネートする人材や団体が無い印象。神戸市は特に阪神・淡路大震災をきっかけにNPOの活動団体が増え、現在も地域課題解決のためのNPOが減っていない要因は、社会課題が複雑化しており、行政の支援から取りこぼされる人が現に存在するからだと感じています。こどもの世代への次世代継承のためには、小中学校の震災学習をバージョンアップし、地域で活動するNPOが日々取り組む社会課題をこどもたちと共有することが急務だと感じます。日常の様々な困りごと(子育て、孤立、介護、ネグレクト、ジェンダー問題等)は他人事ではなく、家族や自分自身に起こりうることだからこそ、大災害に備えるのと同様に、まずは困りごとを知り、解決に取り組む団体や行政機関が存在することをこどもたちに伝えて、その活動の重要性と社会のリアルを大人とこどもで共有したいと願っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動団体の多さ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ組織の弱体化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市町の過疎化。ボランティア活動参加人口の遡減。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い地域内で違う団体が同じ内容の事業をするなど参加者の分断がある。団体同士のつながり、協働事業がしにくい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事異動などによる、担当者の理解不足や手法の転換、考え方の違いなど。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会への参加者の減少と高齢化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体との連携・交流。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化による空洞化・孤立化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人の単身世帯が多い。そのため短期で入れ替わりを繰り返しており、生活マナーやルールの徹底が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉制度のサポートを必要としている当事者またはその保護者における知識、理解不足がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の社会福祉課等に個別検討会開催を依頼しても協力的に動いてもらえない。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神福祉の分野ですが、市議会への働き掛けも無いので議員に理解者が少ない。車移動が主なので送迎が必要になるが人がいない。身体・知的・精神の3障がいの横の連絡がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化の進む地域でいつまでも「長老」がこれまでどおりの自治会や町内会の運営を仕切っていることが多く、若い世代との断絶が見られます。 また、ここ数年の国の経済状況の悪化により30代～50代の人たちが仕事と生活に追われてこの傾向がますます顕著になっています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計に関する相談ができるところが少ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層へのメンタルヘルスの啓発、教育関係者の意識変容。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元や地方だけでなく都会でのセミナーも開催を希望していますが、都会の場合は集客法が難しい。どこからつなげばと頭を悩ます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへの支援は充実しているように思うが、発達課題を抱える子どもへの支援はまだ不十分である。また、高校入学などといったところに重点が置かれ、これから生きるために真に必要なと思われる力を育成するための支援が不十分。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体によって困窮者への対応が異なる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動の固定化。市民が自立し、中心となって活動することを、行政が応援する体制が出来ておらず、行政が主導になってまちづくりを行ってしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者を増やしたいが、情報発信しにくい。まだお金儲けと思っている人が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援の理解、親子の孤立、人間関係の希薄。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18歳以上の孤立孤独。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の児童館、地域福祉センターを対象にした活動なので、特定の地域課題はなし。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に教育の分野での遅れが成長期のこどもの発達の遅れにつながることを懸念している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元以外の活動地域については、課題を述べる資格はない。 地元は幸いにも激甚災害に見舞われた記録がなく、防災訓練などでの動機づけに困っている。 九州での救援の経験から、地形図を使って地元との類似点を示す程度の非科学的な訴えがどこまで通用しているのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域間や行政や活動団体との連携が感じられない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題 ・少子高齢化 ・保育園児低年齢化に伴う親子ふれあいの減少。 ・ 共働き家庭増加による(?)家庭教育力の低下。 ・ コロナ禍を過ごしてきた子供のコミュニケーション力の低下。 ・ コロナ禍をすごしてきた子供の体力。 ・ 免疫力・暑熱等対応力の低下。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動者の高齢化と担い手不足。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山間地域に於いて山の木が多く使用されにくく、空き家になっている家が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の問題(子ども・貧困・精神)に対する解決方法について。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の中で特に連携・ほう助を必要とする方々との出会いを構築すること自体がなかなか難しい。

14. 地域課題に対して、貴団体の取り組みがあればお聞かせください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市の関連イベントへ参加等により関係性を強化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校・ひとり親家庭に対する居場所を開設して運営を始めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者様の安全のため事業所の施錠や防犯カメラの設置。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てという共通の課題による市民、支援団体、行政、大学、企業などの協働とネットワーク化の支援をしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり協力隊と協力して移住希望者に向けた魅力の発信を進行中。
<ul style="list-style-type: none"> ・ プチ就労機会づくり、活動啓発講座、スマホ講座(初心者向け、サポーター養成)など。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自団体セミナーの定期的、継続的な実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症予防、介護予防に関する講座。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空家を都市住民に紹介して移住の支援を行っています。 空き家対策としては全体に占める効果は限定的ですが一つの取り組みとして一定の効果は期待できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 低価格でのプログラム提供等。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の安全対策、枯損木の処理。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方へ根気強くご説明させていただくことぐらいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に支え合う仕組みを、研修や事業で実践、広報、SNS での情報発信。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で生活保護を受け自立を目指されている方への支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の一人ひとりの想い(意識)や行動により未来を創造させていく、との事を理解して頂く様に取り組んでいます。また、アウトカム目標、社会的インパクト視点、を目指すようにしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひろばを定期的開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に祭りやイベントを通した関係性作り。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生以下を無料にしており、たくさんの子どもたちに来館してほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域サポーターを養成し、サポーターの周りに円を作っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 性教育を充実させ、学校格差をなくすために、性教育講師活動とともに性教育シンポジウムなどを開催しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークと連携して、少しでも就労先確保や当事業所における雇用契約による就労場所の提供など実施しております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体から、困窮家庭の情報が寄せられる。その都度食料や日用品の支援をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難行動要支援者への避難支援をテーマとした防災学習やワークショップ、避難訓練や搬送法訓練などの企画実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の委託事業・補助事業を受けて、まちづくり協議会支援や起業支援を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援としてセミナー等を実施するほか、個々の団体を相談業務等でサポートしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ トークセッションの場づくり、助成金のやりくり。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に動いてはいません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手スタッフの役員登用。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護タクシー事業を始め、地域の高齢者の移動手段の選択肢を増やす。 通院時の必要な付添いがない場合は、家族に代わって付き添うサービスを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体だけで解決を目指すのではなく、より地域課題に特化した活動をしている団体との連携により、支援の幅を拡充している。 また単発・単年度開催の講座やイベントよりも、子育て支援プログラムや食支援(パントリー)、集会所開放等で、より長期間にわたり関係を継続できるような取り組みを意識しています。地域のお顔見知りを増やし、声をかけあえる関係性を築き、お困りごとや悩みを吐き出し合えるようなコミュニティづくりを意識しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア層対象のスボレク広場。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活性につながる観光産業育成の事業。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な分野の団体の協働事業を開催し、団体同士が知り合える場を提供している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前任者などへの相談や担当者との協議。
<ul style="list-style-type: none"> ・ HPを開設して多くの人に情報の提供を心がけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営で精一杯で、もし、リーダーシップを取ってくれるところがあればありがたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独死を防ぐための見守り支援を行っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区と連携し「何でも相談窓口」を開設し、地域住民からの相談も受けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある子を持つ保護者向けの勉強会等の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもりの問題を抱えておられる方と繋がるために親の講演会を年 2 回開催している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会などを開催して市議会議員全員に案内状を送る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティの再生と未来の地域を支える若い世代の育成を模索中です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の会計相談を通じ、各々の団体に合った支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域自立支援協議会の事務局運営、子ども、高齢、ひきこもり等関係機関、団体との連携、各計画策定に参画。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談会など頻繁にしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 模索中。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな活動をしている市民が自立できるしくみを考えたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の各社団体と共同で出来ることを増やしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひろば事業では、イベントでの交流。保育事業では関係づくり。広報事業では情報の発信。毎月の情報紙発行。書籍の出版など。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会がしたいがまだ未着手。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地道に啓発活動を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政に対し、防災施策を強化するように働きかける。 ・ 地域の学校や自治会に防災教育・訓練を再開できるように市や教育委員会などを通じて呼びかける。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションカードの開発、普及啓発活動。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発足地域が少子化のため、隣町や大きな小学校校区へ進出している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家で子育てをしながら、いつでも、どんな理由でも短期間でもヘルプできるような、子育てを頑張っているお母さんたちを手助けできるよう、誰でも預けることのできる認可外保育事業を行っている。 ・ 親子で参加できる行事の企画・実施。 ・ 高齢者と幼児のふれあい事業を行い、高齢者には、活力を与え、地域で担う役割があることを実感してもらう。幼児は、敬う気持ちや、優しくする気持ちを育む。 ・ 小学生の長期休暇の宿題お手伝い事業。 ・ ゲームやスマホに頼らない遊び場の提供。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織として「指定管理事業」において様々な相談に対応している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の環境のあり様が健康から人間形成にまで大きく影響を及ぼすと思います。自然摂理に少しの科学的要素を盛り込み単純にて高効果を上げる仕組みと仕掛けを提案しております。この家の基本は『家全体を乾かす』ことで、家全体が乾けば調湿作用が現れ、エアコンの除湿に頼りきらない湿度制御が容易な家になり、乾くことにより朽ちることがない高耐久性住宅になります。さらに、乾いたことにより家全体で熱を蓄えることができます。また朽ちることがないだけに『空き家にならない家』の第一条件をクリアします。乾いた家の効果によりカビ・ダニの繁殖を防

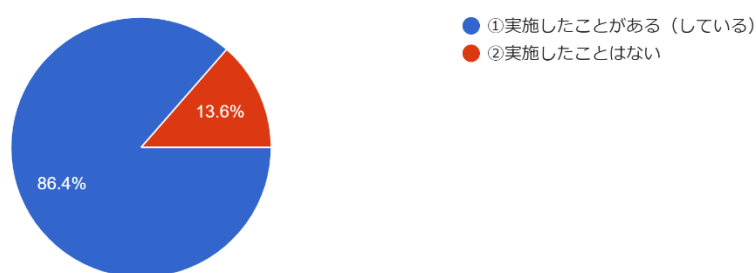
ぎアレルギー・アトピー・鼻炎・花粉症などを抑えれます。
この新たな家づくりは、木材の有効活用ポイントになると思います。誰もが健康で豊かに暮らせるSDGsを実現可能にした次世代の家の提案をしております。

- ・ 困っている家庭への支援活動
- ・ 行政との連携。
- ・ 他法人・団体と手を携えて活動の場を拡張していくことを念頭に置いている。

地域の関係組織や他団体との連携

15. 貴団体のこれまでの活動の中で、他の組織・団体と連携・協働で事業を実施したことがある、または、現在、実施していますか？

81 件の回答

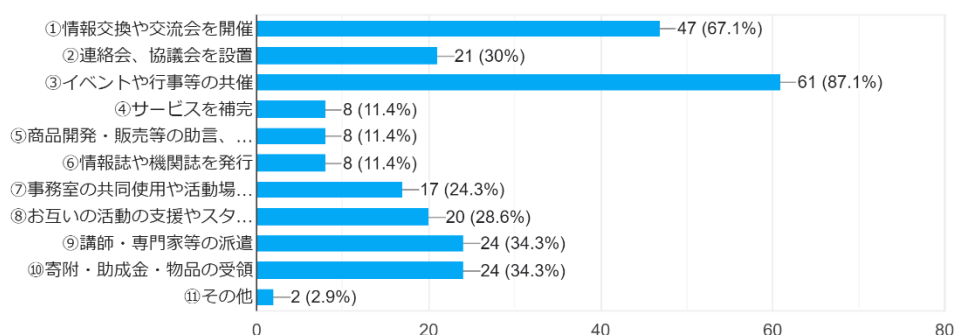


① 実施したことがある(している)	86.4%
② 実施したことはない	13.6%

《設問 15 で「①実施したことがある(している)」と回答した方》

16. それほどのような形でしたか。(複数回答可)

70 件の回答



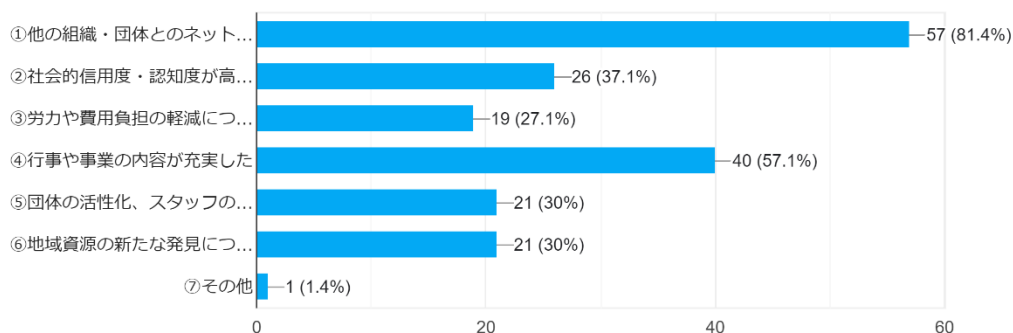
① 情報交換や交流会を開催	67.1%	② 連絡会、協議会を設置	30.0%
③ イベントや行事等の共催	87.1%	④ サービスを補完	11.4%
⑤ 商品開発・販売等の助言、協力	11.4%	⑥ 情報誌や機関誌を発行	11.4%
⑦ 事務室の共同使用や活動場所の提供	24.3%	⑧ お互いの活動の支援やスタッフの受入れ	28.6%
⑨ 講師・専門家等の派遣	34.3%	⑩ 寄附・助成金・物品の受領	34.3%
⑪ その他	2.9%		

17. 前項で「⑩その他」を選ばれた方は内容をご記入ください。

- ・ 町内会・自治会との協働での防災学習会の開催。
- ・ 行政への団体事業の提案。

18. 他の組織・団体と連携・協働して良かった点をお聞かせください。(複数回答可)

70件の回答



① ① 他の組織・団体とのネットワークができ、活動の幅が広がった	81.4%	② ② 社会的信用度・認知度が高まった	37.1%
③ ③ 労力や費用負担の軽減につながった	27.1%	④ ④ 行事や事業の内容が充実した	57.1%
⑤ ⑤ 団体の活性化、スタッフの能力向上につながった	30.0%	⑥ ⑥ 地域資源の新たな発見につながった	30.0%
⑦ ⑦ その他	1.4%		

19. 前項で「⑦その他」を選ばれた方は具体的な課題をご記入ください。

- ・ 行政に対して共通の地域課題の解決に向けた提言やアクションができるようになった。

20. 他の組織・団体との連携・協働にあたり課題となった事例がありましたら、ご記入ください。
(例: 責任の所在が不明確となり、イベント開催時の突発的事案に対応できなかった。)

- ・ いずれも単発になり、継続的な連携に至っていない。
各市での運営体制と方向性が一致しない面が多く、更には連携したくても担当部門がはっきりしないなど。
- ・ 「ネットワークづくり」という名の活動が多く、ミーティングの時間がとられることがあり疲弊することがあった。
- ・ 業種の特性上、会議などが勤務外の時間になってしまっていました。
- ・ 共同開催するいずれの団体も活動資金不足。
- ・ 全てのことを参加者全体の合意で進めようとした結果、事業の主体者・責任者が不明確となり、持続可能な組織化が進まず、良いことをしている人が集まる任意団体から成長させることが出来なかった。
- ・ 町全体の課題に取り組む組織と一部地域で活動を行う組織の間で話が噛み合わない部分が出てくる。
- ・ 参加者の募集。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の基本方針の違いからイベント開催の調整に手間取り、事業の支障となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任でやっていないので、時間や余力的な問題が発生する。 ネットワーク組織はつながるだけで特に物事が進む印象は低い。 ネットワーク組織につくお金がない。 組織フェーズの差や NPO のミッションの異なりでうまくいかないことが多い印象。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 意思決定が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当の意味で、連携・協働が(役割分担・段取りなど)できていないと、役割・責任・責務が大きくなってしまふ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体の高齢化に伴い年齢差における意見の食い違い。 例:昭和・平成それぞれの生まれの考え方の違いで調和がとれない場面を見かけることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有・決定のスピード。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 期日を守れない団体があり、申請書類の提出と現実に相違が発生する事態になった。 ・ イベント共催の相談をされたが、開催の目的やターゲットの設定があいまいで、単に個人がやりたいことだけを主張され、イベント全体の調整と集客を丸投げされたこと。 ・ 助成金・補助金の使途として、主催団体の人件費が計上できないあるいは限度割合設定されているものが多く、イベントをコーディネート(企画運営)する人のマンパワーに対して、無償になることがほとんどである。企画調整する、できる人が金銭的にはマイナスであることが多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表者と職員との考えの違いによる活動への支障。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の共有。
<ul style="list-style-type: none"> ・
<p>計画事項の決定から実施までに時間が無かったこともあり、細部までの共有が出来てなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を一緒にする際の関わる団体が多ければ多いほど、ゴールを共有しておかなければ、目的や手段の認識がずれていくことがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい作業を押し付けあう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体によっては当法人が取り組んでいるような「学生が自主的に地域防災に参画する」ということに関心を持っていただくことで協力または共催で実施したイベントのはずなのに、結局は「単なる手伝い要員」として扱われることがあります。世間一般に「学生ボランティア」は「人手不足の補充」という認識があるようです。ボランティアの 4 要素には「創造性」というものがあります。これは大人の団体に徹底していただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かな調整不足による相互理解の乖離。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり 行政等とも関係するので、全体をコーディネートする人と部署の存在、効果的な動き。土壌づくり。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任の重さが違うと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任の所在、領収書の管理はどこが？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各法人、団体などの意見のすり合わせ。お互いのできること、お願いすることの明確化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続するのが難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が変われば参加者の意識も変わるので多様に対応すべきだな、と感じた。と共にあらかじめ配慮点を明確にすべきだなと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ セクターによって根拠法などが異なる場合に、目的へのベクトルの合わせ方が難しい場合がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動地域は人口的に過疎の地域であり、更に市の中心地とは交通網から隔絶されている(基本、わたしたちの交通手段は鉄道やバスであるため)。 よって、電話や LINE で連絡はとれても、物理的に連携が困難である。

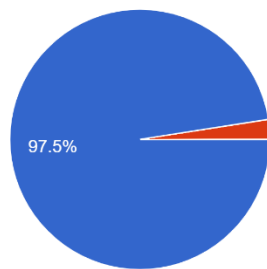
《設問 15 で ②「実施したことはない」と回答した方》

21. 「実施したことはない」とした理由をご記入ください。
 (例: 資金不足、人手不足、連携可能となる情報を知らない、など)

・ 行政との連携を提案したが実現できなかった(行政側の意識が低い)。
・ 上記全て(資金不足、人手不足、連携可能となる情報を知らない)。
・ 資金不足並びに利害関係の一致に至らず社会保障の充実がキーポイントである。
・ 共同できるような NPO 法人が見当たらない。
・ 情報を知らない。
・ どういった活動内容で、どのようにして連携を取って行けばよいのかわからない。
・ 連携可能となる情報が分かりません。
・ 情報交換等はして連携を取っているが協働しての大きな事業は計画していない。
・ 情報を知らないです。やる気満々なんです。
・ 連携可能となる情報を知らない。

22. 今後の活動の中で、他の組織・団体との連携・協働に対する意向について下記から1つ選んでください。

81 件の回答



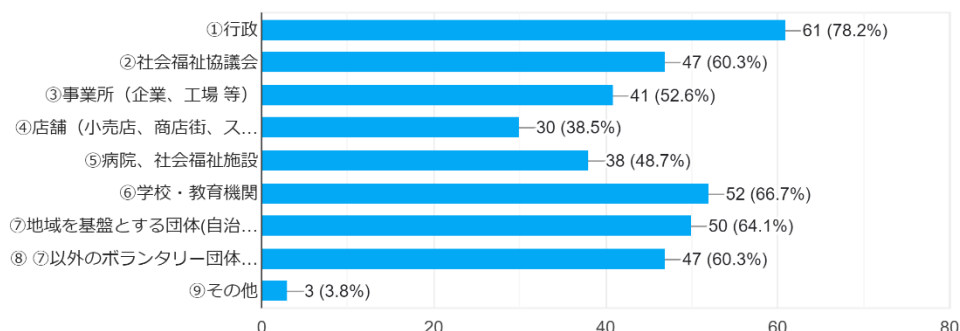
- ①連携・協働したい
- ②連携・協働は考えていない(自団体で完結している、など)

① 連携・協働したい	97.5%
② 連携・協働は考えていない (自団体で完結している、など)	2.5%

《設問 22 「①連携・協働したい」と回答された方》

23. 今後、連携・協働したいとする他の組織・団体をお聞かせください。(複数選択可)

78 件の回答

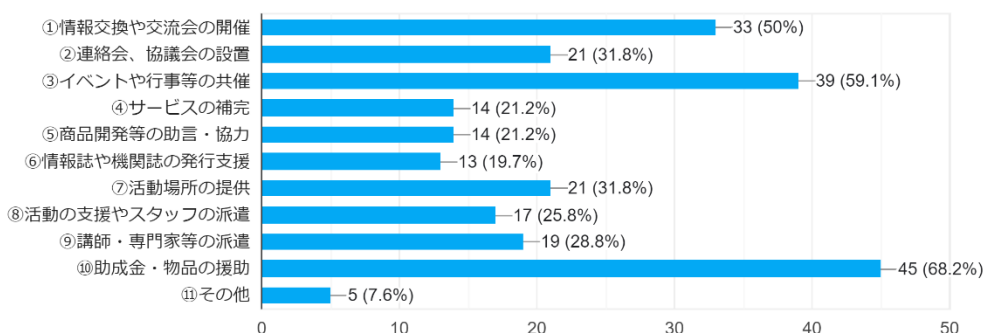


① 行政	78.2%	② 社会福祉協議会	60.3%
③ 事業所(企業、工場等)	52.6%	④ 店舗(小売店、商店街、スーパー等)	38.5%
⑤ 病院、社会福祉施設	48.7%	⑥ 学校・教育機関	66.7%
⑦ 地域を基盤とする団体 (自治会、婦人会、老人会、まちづくり協議会等)	64.1%	⑧ ⑦以外のボランティア団体 (NPO、任意団体等)	60.3%
⑨ その他	3.8%		

24. 前項で「⑨その他」を選ばれた方は内容をご記入ください。

・ JA。
・ すでに①～⑧まで連携ができています。(過去できていた)
・ 同じような活動をしている団体。

25. 設問 23 で「①行政」「②社会福祉協議会」と回答された方にお伺いします。
それはどのような内容ですか。(複数回答可)



① 情報交換や交流会の開催	50.0%	② 連絡会、協議会の設置	31.8%
③ イベントや行事等の共催	59.1%	④ サービスの補完	21.2%
⑤ 商品開発等の助言・協力	21.2%	⑥ 情報誌や機関誌の発行支援	19.7%
⑦ 活動場所の提供	31.8%	⑧ 活動の支援やスタッフの派遣	25.8%
⑨ 講師・専門家等の派遣	28.8%	⑩ 助成金・物品の援助	68.2%
⑪ その他	7.6%		

26. 前項で「⑩その他」を選ばれた方は内容をご記入ください。

・ 地域支援の具体的な事業での連携。
・ 不登校支援の学校との連携。
・ 制作に取り込んでいただく。
・ 地域との連携に向けての窓口として相談したい。
・ 団体事業です。

27. その他気になることや普段の活動でNPO 活動や地域連携などの悩み、感じていることなどありましたら、ご記入ください。

<p>・ 関連団体の無い地域に地域密着の団体を育成し、連携することで、各地に存在する当事者の居場所を面で展開したいですが、特に都会から離れた地域ほど、カミングアウトに関する抵抗が大きいため、制度は作っても有効に機能しない可能性が危惧されます。 少なくとも、阪神間パートナーシップ連携協定締結自治体それぞれが、行政だけでなく、居場所作りを進められるような団体を育成できればよいと感じています。</p>
・ 働いている方の生活を守るという意味での資金の確保。
・ 後継者がいない。
<p>・ 行政などから、新たな試みなどについて市民などより先に情報を頂くことは多くあるが、その多くが決まったこととの連絡であり、出来れば新たな試みを検討する段階で市民や市民団体ももっと意見を出来る場や機会を作って頂けると連携や協働が進むと思います。 協働とは、してほしい人が単にやってくれる人を探すことではなく、共に考え、行動する。 つまり互いに知恵を絞り、汗をかき、試行錯誤をすることだと思えます。 今の連携や協働の多くは言葉では連携・協働と言われていても、実際のところ、どちらかが、どちらかに力を貸すであったり、何かを与えたいかを支払うなど、上下関係が生まれる関係が多く、対等な関係での連携や協働が少なくなってきた感じがします。</p>
・ 活動に参加するスタッフに偏りが出てきている。
・ 高齢者の就労事業を全国展開していきたいと考えており、フランチャイジーとなってくれるNPO等を探したい。
・ 団体事業開催の経費の問題及び集客の問題です。
・ 資金が不足する。
・ 地方部ではNPOを奉仕団体と考えている自治体や団体があり、経費の捻出に苦労する。 参加した経費は団体持ちや委託事業を受託しても団体経費は認めない。
・ 後継者の育成。
・ 他の団体の活動内容等がなかなか分からない。
・ 活動内容が誰にでもわかりやすく簡単に伝えられることの重要性。
・ 一部、自治会の古い体質。地域や政治の意識の低下。
・ とくにはないと思うが、将来的には世代交代の時期がやはり心配ではある。
・ スタッフ同士が気持ちを話す時間をなかなか、取れない。
・ 日本国でのNPO法人という組織の浸透性が未だに希薄でボランティアとされている点。

<ul style="list-style-type: none"> 行政や社協とは連携を取っているが、まだ当方とつながっていない困窮家庭支援団体がある。そういったところとつながり、困窮家庭の支援をしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 姫路を除く西播磨地域で、NPO 法人を取りまとめる団体が存在していない。連携をとるためにも必要と思う。
<ul style="list-style-type: none"> 社会が後ろ向きになっていると感じ、新しい取組みをしても手応えを感じられない。
<ul style="list-style-type: none"> スタッフが平日はそれぞれの仕事があるため、日曜日にボランティアで地域サロンを開催し、専門職による講座、茶話会、健康体操、健康や介護予防の情報提供などの内容です。講座講師をボランティアでお願いしていますが、行政の出前講座、地域包括支援センターの専門職に講師依頼をしたのですが、行政は日曜日は不可であったり、地域包括支援センターは地域の地縁団体でないと難しいと言われることがあったりしました。小さな活動であっても地域で活動しており、どなたでも参加いただけるサロンなので、地域の社会資源のひとつと考えていただき、応援していただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 有給の常勤職員がいないこと、事務所に電話がないこと、いつまでもこのままでいいのか？
<ul style="list-style-type: none"> 市の駅前活用などの取組みはありがたいが、実施前の地域への説明や相談が不十分。知らされるのも数日前等で、実施して発生した問題については近隣店舗や地域活動団体が一次的に対応を余儀なくされる。お顔の見える丁寧な関係性を望みます。 イベント等の協働の場合、先立つ運営資金などの調達が整ってこそ、すぐに実施にむけて動けるが、想いがあっても無償でできることの限界がある。そういう事情からも、行政担当課や社協さんが、積極的にコーディネートに動いてくれるのが理想だが、現実はかなっていない。
<ul style="list-style-type: none"> NPO 等の活動内容が、地域の小中学生とその保護者さんの多くには知られていない。自分自身か家族が困りごとに直面したときになってから、情報収集しようとしても、すぐに相談機関から支援団体につながることは難しい。学校と連携すると、生徒会や部活等特定のメンバーとの関係に絞られる傾向がある。地域においては、主体的に参画したいこともと大人が協働できる環境づくりが必要であると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> 子育てサークル等、スタートアップの団体は集客、広報に苦戦することが多い。区のインスタグラム等で積極的に情報発信してもらえる仕組みが欲しい。妊婦さんにマタニティ、産前支援の情報を届けることが非常に困難。行政や社協運営の子育てひろばでのチラシ配架の許可がおりないため、民間の支援活動の情報が、市民に届く手段がほとんどない。行政や社協の取組みだけで十分なのであればこれでよいが、取りこぼされている人やその補完的な民間の取組みに対しての扱いが劣悪。市区町村の委託事業であっても、窓口で一蹴されたこともある。これは早期に改善してほしい。地域活動が下に見下されているように感じる。
<ul style="list-style-type: none"> 対等な連携ができていく。
<ul style="list-style-type: none"> NPO 活動の世代交代についての課題。
<ul style="list-style-type: none"> 人材にもよるが能力向上の方法や意識改革など。
<ul style="list-style-type: none"> 交流できる機会がほしい。
<ul style="list-style-type: none"> NPO は情報公開が原則のため連携を検討する際に HP や内閣府のデータベース等で確認ができるが、近年増えている一般社団法人はなかなか団体 HP がなければ確認ができない。一般社団法人の活動内容等が共有できるシステムがほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 活動の基本になる経費が不足している。
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のテーマや目的が近い他団体とのつながりを作りたいが、なかなか機会が作れない
<ul style="list-style-type: none"> 市からの補助金のみで運営していて活動に対する人件費は支出できないために若い世代のスタッフが居ない。ひきこもっている人と同世代の活動スタッフが必要である。
<ul style="list-style-type: none"> 広報活動ができていない。
<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人は利益中心でないで、個人の責任感が薄く感じられ、どうしてもいつも決まった人が中心で活動しなくてははいけなくなる気がする。
<ul style="list-style-type: none"> まとめ役の不足。
<ul style="list-style-type: none"> 焦らずに、少しずつ身の丈にあった活動をすることだと思っています。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える方法。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員の高年齢化とともに活動できる会員が減少している。新規会員の募集に苦労している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントで連携していただけたところがあれば嬉しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助成金等 NPO の活動支援の情報を、様々な媒体で手広く発信してください。 ・ NPO 法人が提出すべき書類・報告等は極めて簡潔簡易になるように、Web などを使った定型的システムの提供をお願いしたい。 この煩雑さが嫌で資格を返上していく NPO 法人があると聞きます。 その指南をすると言う貴団体には申し訳ありませんが、今の DX 時代においては無駄なことではないでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携可能となる情報を知らない、連携や協力を求めても話さえ聞いてくれない事がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費を含む資金調達の手法を知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資金の調達の方法。例えば支援金や助成金などの情報がわかりづらい。